

第2回新型インフルエンザ（A/H1N1）対策総括会議

参考資料

平成22年4月12日

厚生労働省新型インフルエンザ対策推進本部

「広報」について

新型インフルエンザ（A/H1N1）発生前の準備段階

- 三菱総合研究所が2008年3月に実施した一般の方へのアンケートによると、約80%は新型インフルエンザを知っており、かつ不安に感じていると回答していた。しかし、約50%は曖昧な理解しかしていないと予想された。また、行政が対策を実施すれば、多くの人が協力すると回答したが、何を行えばよいのか具体的にイメージできる人は少なかった。
- 品川区医師会が実施した医療従事者へのアンケートによると、約60%が「発熱外来に協力できない」と回答しており、産業医科大学の調査では、新型インフルエンザの発生に際しては26%が「感染リスクがあるなら転職も考えたい」と回答した。

上記のアンケート調査等を踏まえ、下記のような広報、リスクコミュニケーション活動を行った。

① 専門家からのアドバイス聴取

- ・ 新型インフルエンザ専門家会議のワーキンググループにおける検討
〈日程及びテーマ〉

2008年5月23日：課題および取り組み事項の確認

7月17日：リスコミ基本プラン策定に向けた考え方の整理

9月5日：各フェーズにおける情報提供項目の確認

10月14日：医療従事者への情報提供について

10月28日：ワクチン接種の国民的議論について

12月18日：課題の整理

② マスメディアとの関係構築

- ・ 新型インフルエンザ対策推進室長が、主に「鳥インフルエンザH5N1のヒトへの感染」について、厚生労働記者会への定例記者会見を開催した。（2週間に一度）
- ・ 随時、勉強会を開催し、新型インフルエンザ対策についての情報を記者の方々に提供した。また、日本で感染例が出た場合の情報公表のタイミング及び項目についての意見交換を実施した。
- ・ テレビ局6社、新聞3社に出張して、各社の幹部および関係部局の方々へ、新型インフルエンザ対策について説明し、報道機関としてBCP（事業継続計画）策定が必須であることを伝達した。

③ 一般的な広報活動

- ・ 「新型インフルエンザとは」「国の対策」「各自に実行してほしいこと」「薬とワクチンについて」に関して、A4版4ページのパンフレットを作成し、厚生労働省ホー

ムページで公開した。

- ・アニメDVD「知っておきたい感染予防策」を作成し、厚労省HPで公開した。内容は咳で飛び散る飛沫や手・ものに付着するウイルスの様子などを特殊撮影で映像化した。
- ・政府広報として新聞突き出し、インターネットTVを各1回制作した。インターネットTVでは国立感染症研究所感染症情報センター長に監修を依頼した。
- ・新聞・雑誌などの取材やテレビ番組の撮影取材にも対応した。
- ・医療従事者向けの広報として、医療専門雑誌（「胸部臨床」「インフェクション・コントロール」）における連載枠を確保し原稿を提供した。

④ 自治体への広報

- ・国立保健医療科学院で年間3回ほど、新型インフルエンザ対策の講座を担当し、対策の概要、医療対応、リスクコミュニケーションなどを自治体・保健所の職員に説明した。
- ・2009年2月、行動計画とガイドラインが改正されたが、その内容が固まった1月に都道府県担当者への説明会を東京にて実施した。正式な改正後は全国6箇所でのブロック会議を開催し、改正の内容を市町村へ周知した。

⑤ 電話対応システム構築の模索

- ・民間の電話相談事業会社に結核感染症課の電話相談業務を外注し、相談案件および回答のデータ化と分析を進めた。

⑥ BCP策定促進のための講演活動

- ・2008年4月時点において、BCPを策定していたのは上場企業においても1、2割であったため、事業者ガイドラインの新しい案をとりまとめ後、本格的に経団連などの団体や個別の企業グループなどで講演活動を行った。

⑦ その他

- ・ワクチンの優先順位についての「国民的な議論」のあり方について、コンセンサス会議などいくつかのモデルを検討した。また、医療倫理の観点からのアドバイスを受けた。

新型インフルエンザ（A/H1N1）海外発生から国内発生まで

（2009年4月23日から5月15日まで）

【事実関係】

- 報道機関対応として、2名を正式にスポークスパーソンに任命し、記者会見を定例・定時化した。4月25日・26日は1日に2回実施したが、27日以降は（6月19日まで）毎日1回・16時開始に設定した。重要な発表は厚生労働大臣自身が記者会見を行い、

事務方が大臣発表後のぶら下がり取材に対応した。大臣会見は4月27日の第一回目を皮切りに、28日・30日、5月1日・9日・13日と頻繁に行われている。また、大臣の方針として、新型インフルエンザ関連情報は積極的に公開することとされた。

- 広報展開では、政府広報枠の活用をメインとした。
 - ・5月14日及び15日に、主要5紙と地方紙の1ページ全面を使った広告を掲載。「かからないために・うつさないために」というテーマで全国民に向け具体的な行動の指針を提示した。
 - ・また、「インターネットTV」では「私たちにもできる新型インフルエンザの身近な予防策～国内で発生したら?～」を制作・公開した。制作会社との協力でシナリオを作成し、感染研のスタッフに監修・出演を依頼。
- 独自の情報発信として、厚生労働省チャンネル（YOU TUBE）に大臣記者会見を公開するとともにホームページによる情報発信を行った。報道機関の編集を経ない情報が直接国民に伝わるという利点をもつことから、積極的にYOU TUBEを活用した。

インターネットTV

<http://nettv.gov-online.go.jp/library.html?k=%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%95%E3%83%AB%E3%82%A8%E3%83%B3%E3%82%B6&n=1&s=2>

私たちにもできる新型インフルエンザの身近な予防策～国内で発生したら?～

チャンネル：20ch 日付：2009/05/14



※注意このコンテンツは平成21年5月に作成したもので、一部現在の対策とは異なります。厚生労働省では、「新型インフルエンザの感染拡大を防ぐには、身近な予防策が重要」と呼びかけています。今回は、新型インフルエンザがどのようなものかといった基礎知識から、感染経路や正しい手の洗い方など、私たちにもできる予防法を紹介します。

新型インフルエンザ

～「かからない」ために。「うつさない」ために。～

■新型インフルエンザも、他の病気と同様、日頃からの予防が大切です。

- 「頻密な手洗い」、「うがい」を心がけましょう。
- 咳やくしゃみをする際には、「咳エチケット」を守りましょう。

※「咳エチケット」とは？

- ・咳やくしゃみが出るときは、ティッシュや肘の裏を押し入れ、周囲の人から顔をそらしましょう。
- ・感染したティッシュは、すぐにゴミ箱に捨てましょう。
- ・そのほか適切な手洗いやうがいを心がけ、不必要に密着に接しないよう、注意しましょう。



■かかったかなど心配なときは、まず、「発熱相談センター」に相談してください。

- 海外から帰国した後で、急な発熱や咳が出る時などは、病院に行く前に、まず、最寄りの保健所などに置かれている「発熱相談センター」に電話をしましょう。

- 最寄りの「発熱相談センター」の連絡先は、下記の各都道府県・政令指定都市の相談窓口までお問合せいただくか、厚生労働省のホームページをご覧ください。

※「発熱相談センター」では、専門の診療を行う「発熱外来」の実施など、適切なアドバイスをさせていただきます。



■これまでのところ、早期に適切な治療を受ければ、おそれる必要はありません。

- インフルやリレンザといった薬品も、治療薬が認められており、国や都道府県などで、約3,800万人分の備蓄があります。

■政府・各自治体が発表する情報に十分注意して、冷静な対応をお願いいたします。

【新型インフルエンザに関する各都道府県・政令指定都市の相談窓口】

北海道	011-222-5200	埼玉県	048-222-2222	千葉県	043-222-2222	東京都	03-3501-9031
青森県	017-222-2222	千葉県	043-222-2222	東京都	03-3501-9031	神奈川県	045-222-2222
岩手県	019-222-2222	東京都	03-3501-9031	神奈川県	045-222-2222	新潟県	025-222-2222
宮城県	022-222-2222	新潟県	025-222-2222	富山県	076-222-2222	石川県	077-222-2222
秋田県	018-222-2222	富山県	076-222-2222	福井県	077-222-2222	山梨県	055-222-2222
山形県	023-222-2222	福井県	077-222-2222	山梨県	055-222-2222	長野県	026-222-2222
福島県	024-222-2222	山梨県	055-222-2222	長野県	026-222-2222	岐阜県	058-222-2222
茨城県	029-222-2222	長野県	026-222-2222	岐阜県	058-222-2222	静岡県	054-222-2222
栃木県	028-222-2222	静岡県	054-222-2222	静岡県	054-222-2222	愛知県	052-222-2222
群馬県	027-222-2222	愛知県	052-222-2222	愛知県	052-222-2222	徳島県	087-222-2222
千葉県	043-222-2222	徳島県	087-222-2222	徳島県	087-222-2222	香川県	087-222-2222
東京都	03-3501-9031	香川県	087-222-2222	香川県	087-222-2222	高松市	087-222-2222
神奈川県	045-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222
新潟県	025-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222
富山県	076-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222
石川県	077-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222
福井県	077-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222
山梨県	055-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222
長野県	026-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222
岐阜県	058-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222
静岡県	054-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222
愛知県	052-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222
徳島県	087-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222
香川県	087-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222
高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222	高松市	087-222-2222

【新型インフルエンザに関する厚生労働省の電話相談窓口】 03-3501-9031（受付時間 9:00～21:00）
 【新型インフルエンザに関する詳しい情報は】
 首相官邸ホームページ <http://www.kantei.go.jp> 厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp>

国内発生から流行入りまで（2009年5月16日から8月中旬まで）

【事実関係】

- 国内感染確定例が確認された時は、大臣会見をYOU TUBEに公開した。また、6月の基本的対処方針及び厚労省の運用指針改訂に際しては、結核感染症課課長等による解説動画を作成・公開した。
- 国内感染確定例の発生を契機に、国民向けの広報活動を本格化した。具体的には、
 - ・「冷静な行動のお願い」をテーマにした4ページのパンフレットを作成し、ホームページに公開して自治体等で、自由に活用できるようにした。
 - ・「症状がある方へ」というリーフレットを作成した。熱が出た人を読者として想定し、どのような行動をとったらよいのかを具体的に指示した内容とした。このリー

フレットもデータとしてホームページに公開して自治体等で、自由に活用できるようにした。

流行入り以降（2009年8月15日から12月まで）

【事実関係】

- 流行状況に即した広報活動として、適宜記者発表を行った。
 - 8月19日：舛添大臣会見「流行期入りを迎えるにあたって」
 - 8月27日：舛添大臣会見「本格的な流行への対応について」などの大臣会見により、秋冬の流行への大々的な注意喚起を行った。これらの会見はYOU TUBEで公開した。

- 8月中旬以降は本格的な流行期を前に、誰にでも分かりやすいコンテンツ作りを広報における最優先課題とし、ホームページの構成とデザインを一般の方々向けにアレンジしなおした

- 「予防・受診・療養」に関する情報提供として、政府広報の活用と資材制作の2つを中心として行った。政府広報枠の活用は以下のとおりである。
 - 9月：
新聞一面突き出しに「ひとり一人が感染拡大を防ぐ！」という啓発的なメッセージを掲載。
インターネットTVにて感染研・感染症情報センター長・岡部先生が監修・出演した動画コンテンツ「新型インフルエンザ あなたの？に答えます（予防編・受診療養編）」を公開。
 - 10月：
ラジオでニッポン放送の「栗村智のHappy！ニッポン！」にスポークスパーソンが出演。
小学校低学年をメインターゲットにしたフラッシュコンテンツ「新型インフルエンザにそなえよう！」を公開（監修は国立感染症研究所の岡部先生）。
15秒×2本のCM（咳エチケット啓発映像）を公開。
 - 11月：
長妻大臣出演のテレビ番組「そこが聞きたい！ニッポンの明日」
広報誌「Cabinet」の記事「身近な健康管理 新型インフルエンザとは？」。
 - 12月：
視覚障害者向けの音声広報CD「明日への声」で新型インフルエンザを取り上げられた。
鳩山総理大臣メールマガジンのクリスマス号に感染研・岡部先生の予防・療養に関する記事を掲載した。

資料の制作は以下のとおり。

■ 9月：

患者会情報センターを中心にした、患者さんたちのグループによるパンフレットを2つ制作・公開（「ぜんそくなどの呼吸器疾患のある人へ」と「糖尿病あるいは血糖値の高い人へ」）した。

「感染拡大はひとり一人が防ぐ」をキーメッセージにしたポスターを制作し、PDFデータをホームページに公開した。

■ 10月：

医療従事者を対象としたノウハウビデオ（DVD）を制作した。テーマは、外来診療における患者さん同士の感染を防ぐためのノウハウで、この動画コンテンツは診療所編と病院編の2つがあり、ともにホームページで公開した。また、都道府県や医師会などにはDVDとして配布した。

■ 12月：

小児の自宅における急変例が重なったことから、「発熱したお子さんを見守るポイント」についてパンフレット（A4裏表）とポスター（A3）を制作し、日本小児科学会と連携してホームページに掲載した。

患者会情報センターを中心にした患者さんたちのグループによるパンフレットの第2弾をホームページに公開（「妊娠中・授乳中の人へ」と「がんで治療中の人へ」）した。

- ワクチン関連の広報では、8月以降、情報決定過程を公開することへの要望が強かったことから、まずは、優先接種の考え方や実際の優先順位などについて、意見交換会などの資料や議事録を、ホームページへ迅速にアップした。
- 9月下旬以降は、優先接種の考え方や接種体制についての広報にシフトした。具体的には、政府広報として、新聞1面を使った「ワクチン接種について知っていただきたいこと、ご理解いただきたいこと」という広告を実施するとともに同主旨のパンフレット（A4版4ページ）を制作・公開した。
- ワクチン接種が始まってからは、安全性関連情報（検討会報告）の迅速な公開を行った。
- 輸入ワクチンの安全性に関しては、接種を考える一般の方々の判断に資するよう、十分な情報を提供することが特に求められた。ワクチンについての説明は正確さを優先すれば専門的で難しくなり、可能な限り平易な表現を求めたが、結果としては、専門的で難しい内容を一部含むものとなった。
- 定例記者会見は09年8月26日から週2回実施していたが、2010年2月19日からは再び週1回とした。

- 週刊誌は新聞・テレビとは異なる報道姿勢をもち、新型インフルエンザに関しても独特の切り口から報道を行っていた。なかには事実誤認にもとづくと考えられる記事もあったが、それは厚生労働省が十分に情報提供を行っていないために生じた可能性もあると考えられた。そこで、大臣からの指示もあり、主要週刊誌の編集部を訪問し、その後のコミュニケーションを円滑にすべく、取材対応などについて具体的な意見交換を行った。

記者会見について

大臣等の会見(主な例)

大臣会見	日時	案件
舛添大臣会見	2009年4月28日(火)	新型インフルエンザについて
舛添大臣会見	2009年4月30日(木)	WHOのフェーズ5への引き上げについて
舛添大臣会見	2009年5月1日(金)	新型インフルエンザの疑いのある患者について
舛添大臣会見	2009年5月9日(土)	新型インフルエンザ患者発生について
舛添大臣会見	2009年5月13日(水)	停留期間の見直しについて
舛添大臣会見	2009年5月16日(土)	感染研での検査結果、新型インフルエンザの患者であることが確定した件 (国内で最初の新型インフルエンザ発生について)
舛添大臣会見	2009年5月18日(月)	新型インフルエンザの拡大防止について
舛添大臣会見	2009年5月20日(水)	滋賀県における新型インフルエンザの患者の発生について、新型インフルエンザの患者の臨床像について
舛添大臣会見	2009年8月19日(水)	新型インフルエンザについて (新型インフルエンザの流行入りを迎えるにあたって)
舛添大臣会見	2009年8月27日(木)	新型インフルエンザの本格的な流行への対応について
長妻大臣会見	2009年10月1日(木)	今後の新型インフルエンザ対策について
足立政務官会見	2009年10月16日(金)	新型インフルエンザでの医療機関受診について
足立政務官会見	2009年10月20日(火)	新型インフルエンザワクチンの接種回数について
足立政務官会見	2009年11月6日(金)	インフルエンザ(A/H1N1)ワクチンの小児への接種時期の前倒し等について
長妻大臣会見	2010年1月15日(金)	薬事・食品衛生審議会薬事分科会の結果をふまえた対応について (輸入ワクチンの特例承認と健康な成人への接種開始について)

※ この他閣議後の会見、出張先での会見など様々な場面で新型インフルエンザについて報告

定例記者会見

新型インフルエンザ 定例会見	日時				回数
	から		まで		
			2009年4月15日	水	H5N1を想定した新型インフルエンザ対策について隔週水曜日に勉強会を実施
	2009年4月25日	土	2009年4月26日	日	1日2回
	2009年4月27日	月	2009年5月24日	日	毎日(原則 16:00)
	2009年5月25日	月	2009年6月21日	日	週5回(月～金)
	2009年6月22日	月	2009年7月17日	水	週3回(月・水・金)
	2009年7月22日	水	2009年8月19日	水	週1回(水曜日)
	2009年8月26日	水	2010年2月12日	金	週2回(水・金)
	2010年2月19日	金	2010年4月2日	金	週1回(金)

新型インフルエンザ関連「政府広報」

【新聞】

●2009年5月掲載 全12段（1ページ）広告

「新型インフルエンザ ～「かからない」ために。「うつさない」ために。～」

5月14日

読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、日本経済新聞、北海道新聞、東京・中日新聞、西日本新聞、東奥日報、陸奥新報、デーリー東北、秋田魁新報、岩手日報、山形新聞、河北新報、福島民報、福島民友、上毛新聞、茨城新聞、下野新聞、千葉日報、神奈川新聞、埼玉新聞、新潟日報、北日本新聞、北國富山新聞、福井新聞、日刊県民福井、信濃毎日新聞、長野日報、山梨日日新聞、静岡新聞、岐阜新聞、京都新聞、神戸新聞、山陽新聞、中国新聞、日本海新聞、山陰中央新報、四国新聞、愛媛新聞、徳島新聞、高知新聞、佐賀新聞、長崎新聞、大分合同新聞、熊本日新聞、宮崎日日新聞、南日本新聞、琉球新報、沖縄タイムス

5月15日

釧路新聞、十勝毎日新聞、苫小牧民報、室蘭民報、岩手日日、北羽新報、米澤新聞、常陽新聞、東愛知新聞、奈良新聞、伊勢新聞、山口新聞、岡山日日新聞、島根日日新聞、宇部日報、南海日日新聞、八重山毎日新聞、宮古毎日新聞

5月16日

荘内日報、南信州新聞、紀伊民報

●2009年9月掲載 1面突き出し（小スペース）

「ひとり一人が感染拡大を防ぐ！」

9月14日

読売新聞

9月15日

北海道新聞、東京・中日新聞、西日本新聞

9月16日

産経新聞

9月17日

毎日新聞

9月18日

室蘭民報、釧路新聞、十勝毎日新聞、苫小牧民報、東奥日報、陸奥新報、デーリー東北、秋田魁新報、岩手日報、岩手日日、山形新聞、河北新報、福島民報、福島民友、米澤新聞、北羽新報、荘内日報、上毛新聞、茨城新聞、下野新聞、千葉日報、神奈川新聞、埼玉新聞、常陽新聞、新潟日報、北日本新聞、北國富山新聞、福井新聞、日刊県民福井、信濃毎日新聞、長野日報、山梨日日新聞、静岡新聞、岐阜新聞、東愛知新聞、南信州新聞、奈良新聞、京都新聞、神戸新聞、伊勢新聞、紀伊民報、山陽新聞、中国新聞、日本海新聞、山陰中央新報、山口新聞、四国新聞、愛媛新聞、徳島新聞、高知新聞、岡山日日新聞、島根日日新聞、宇部日報、佐賀新聞、長崎新聞、大分合同新聞、熊本日新聞、宮崎日日新聞、南日本新聞、琉球新報、沖縄タイムス、南海日日新聞、八重山毎日新聞、宮古毎日新聞

9月19日

朝日新聞

9月20日

日本経済新聞

●2009年11月掲載 全12段（1ページ）広告

「新型インフルエンザ ワクチン接種について～知っていただきたいこと、ご理解いただきたいこと」

11月3日

読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、日本経済新聞、北海道新聞、東京・中日新聞、西日本新聞、室蘭民報、釧路新聞、十勝毎日新聞、苫小牧民報、東奥日報、陸奥新報、デーリー東北、秋田魁新報、岩手日報、岩手日日、山形新聞、河北新報、福島民報、福島民友、米澤新聞、北羽新報、荘内日報、上毛新聞、茨城新聞、下野新聞、千葉日報、神奈川新聞、埼玉新聞、常陽新聞、新潟日報、北日本新聞、

北國富山新聞、福井新聞、日刊県民福井、信濃毎日新聞、長野日報、山梨日日新聞、静岡新聞、岐阜新聞、東愛知新聞、南信州新聞、奈良新聞、京都新聞、神戸新聞、伊勢新聞、紀伊民報、山陽新聞、中国新聞、日本海新聞、山陰中央新報、山口新聞、四国新聞、愛媛新聞、徳島新聞、高知新聞、島根日日新聞、佐賀新聞、長崎新聞、大分合同新聞、熊本日日新聞、宮崎日日新聞、南日本新聞、琉球新報、沖縄タイムス、南海日日新聞、八重山毎日新聞、宮古毎日新聞

11月4日

岡山日日新聞、宇部日報

【CD】

- 2009年12月発行 音声広報CD「明日への声」Vol.11
政策フラッシュ そこが知りたい その2
「かからない、うつさないための 新型インフルエンザ・季節性インフルエンザ対策」

【広報誌「Cabi ネット」】

- 2009年6月号
「身近な健康管理 新型インフルエンザとは？」
※感染症研究所安井先生によるQ A式解説
- 2009年11月号
「行政アクセス 新型インフルエンザワクチン接種」
※新型インフルエンザワクチンの優先接種について解説

【インターネット文字コンテンツ】

- 2009年9月掲載 「お役立ち記事」
テーマ：新型インフルエンザ かからない・うつさないために
※文字+イラストのコンテンツ
- 2009年11月9日更新 「政府広報オンライン」
新型インフルエンザ対策
※インターネットサイトによる情報提供（文字のみ）
- 2009年12月24日号 「鳩山大臣メールマガジン」
「頑張ってます 季節性インフルエンザも新型インフルエンザも、家で見る目は同じ」
※感染研岡部先生の寄稿

新型インフルエンザ関連「資材制作」

【パンフレット】

- 2009年5月下旬公開 「冷静な行動のお願い」

※A4版4ページもの。厚労省の対策と各人のとっていただきたい行動について解説

- 2009年9月中旬「ぜんそくなどの呼吸器疾患のある人へ」

「糖尿病あるいは血糖値の高い人へ」

※特別研究の一環として患者会情報センターが作成。

- 2009年10月下旬公開 「新型インフルエンザワクチン」1

※A4版4ページもの。優先接種に関する基本的な考え方・実施の要領・標準スケジュールなどを解説

- 2009年11月中旬公開 「新型インフルエンザワクチン」1 英語版

※A4版4ページもの。優先接種に関する基本的な考え方・実施の要領・標準スケジュールなどを解説

- 2009年12月上旬「妊娠中・授乳中の人へ」「がんで治療中の人へ」

※特別研究の一環として患者会情報センターが作成。

- 2010年2月上旬公開 「新型インフルエンザワクチン」2

※A4版4ページもの。輸入ワクチンと国内産ワクチンとの比較について解説

【リーフレット】

- 2009年5月公開 「症状がある方へ」

※A5版10ページ。医療班作成。HPにデータで掲載。

- 2009年12月中旬公開「発熱したお子さんを見守るポイント」

※A4版2ページ。医療機関で配布する、罹患したお子さんをお持ちの保護者向け。

【ポスター】

- 2009年5月下旬「厚生労働省のみなさんへ」

※A3版モノクロ。省職員向けの注意喚起。省内各フロアに掲示。

- 2009年9月上旬公開「感染拡大はひとり一人が防ぐ」

※A3版。感染拡大防止用の基本メッセージ伝達用。HPにデータで掲載。

- 2009年10月下旬公開「新型インフルエンザワクチンについて」

※A3版。医療機関内に掲示し、優先接種・接種順位について略説。HPにデータで掲載。

- 2009年12月中旬公開「発熱したお子さんを見守るポイント」

※A3版。医療機関に掲示。罹患したお子さんをお持ちの保護者向け注意喚起用。HPにデータで掲載。

新型インフルエンザ対策関連情報

新着ピックアップ

- 第2回新型インフルエンザ(A/H1N1)対策総括会議の開催について 2010年4月7日
- 「第1回新型インフルエンザ(A/H1N1)対策総括会議」での資料について 2010年4月1日
- 新型インフルエンザ(A/H1N1)の流行状況について 2010年3月31日
- 新型インフルエンザ(A/H1N1)対策総括会議の開催について 2010年3月26日
- 第6回新型インフルエンザ予防接種後副反応検討会 2010年3月25日
- 第6回新型インフルエンザ予防接種後副反応検討会 2010年3月25日
- 輸入および国内産ワクチンの比較解説パンフレット(2010年2月10日版) 2010年2月10日
- 新型インフルエンザワクチンQ&A(2010年2月8日版) 2010年2月9日
- 都道府県別 健康成人接種開始日一覧 2010年2月4日

最新ピックアップ一覧 一報速発表資料一覧 一関連法令・通知・事務連絡

新型インフルエンザ関連情報はRSS配信に対応しています。くわしくはこちら

目でみて分かる新型インフルエンザ



長妻大臣会見～新型インフルエンザワクチン接種に係る輸入ワクチンの特例承認及び健康成人への接種開始について(2010年1月15日)

政府広報

【政府インターネットテレビ】

総理の動き～新型インフルエンザ対策本部会合(2009年10月1日)

新型インフルエンザ あなたのかたに答えます(予防編)(2009年9月3日)

YouTube

長妻大臣会見～新型インフルエンザワクチン接種に係る輸入ワクチンの特例承認及び健康成人への接種開始について(2010年1月15日)

中高生・妊婦への新型インフルエンザワクチンの

新型インフルエンザ入門



1. 新型インフルエンザとは？

新型インフルエンザと季節性インフルエンザの違い

今回の新型インフルエンザの特徴



2. かからないための予防法

インフルエンザの感染経路について

かからないための予防法



3. かかったときの対応

かかったかどうかの判断

受診に関する注意



4. 自宅での療養

自宅療養の注意点

回復後の外出



5. ワクチン

ワクチンの効果
ワクチンの安全性

接種の回数

新型インフルエンザ関連資料

政府広報

パンフレット

インフルエンザかな？
症状がある方々へ

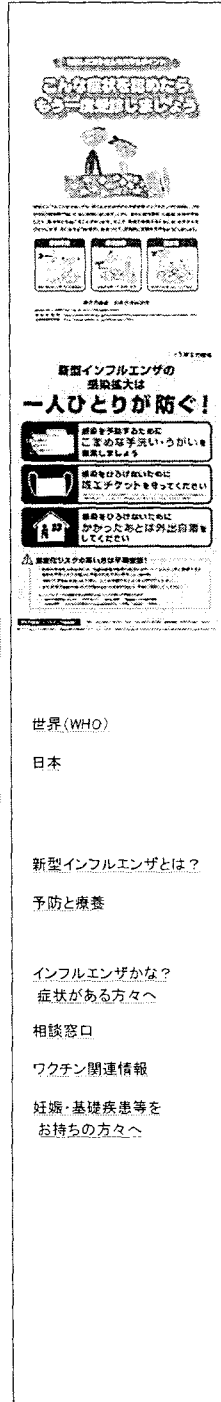
厚生省 / 都道府県別
相談窓口

ワクチン関連情報

新型インフルエンザ予防接種による
健康被害救済制度

妊娠・基礎疾患等をお持ちの方々へ

Q&A



新型インフルエンザの
予防は
一人ひとりが防ぐ！

- 咳やくしゃみをしたときに
こまめに手洗いうがいや
マスクをしよう
- 咳やくしゃみをしたときに
マスクを着けてください
- 咳やくしゃみをしたときに
かかったあとには外出自粛
してください

世界(WHO)
日本
新型インフルエンザとは？
予防と療養
インフルエンザかな？
症状がある方々へ
相談窓口
ワクチン関連情報
妊娠・基礎疾患等をお持ちの方々へ

新型インフルエンザ

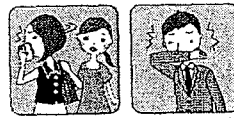
～「かからない」ために。「うつさない」ために。～

■新型インフルエンザも、他の病気と同様、日頃からの予防が大切です。

- 「頻繁な手洗い」、「うがい」を心がけましょう。
- 咳やくしゃみをする際には、「咳エチケット」を守りましょう。

※「咳エチケット」とは？

- ・咳やくしゃみが出たときは、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、周囲の人から顔をそらしましょう。
- ・使用したティッシュは、すぐにゴミ箱に捨てましょう。
- ・その後すぐに、手洗いしましょう。手洗いをする前は、不必要に周囲に触れないよう、注意しましょう。



■かかったかなと心配なときは、まず、「発熱相談センター」に相談してください。

- 海外から帰国した後で、急な発熱や咳が出る時などは、病院に行く前に、まず、最寄りの保健所などに置かれている「発熱相談センター」に電話をしてください。



- 最寄りの「発熱相談センター」の連絡先は、下記の各都道府県・政令指定都市の相談窓口までお問合せいただくか、厚生労働省のホームページをご覧ください。

※「発熱相談センター」では、専門の診療を行う「発熱外来」の案内など、適切なアドバイスを受けられます。

■これまでのところ、早期に適切な治療を受ければ、おそれる必要はありません。

○タミフルやリレンザといった薬品も、治療効果が認められており、国や都道府県などで、約3,800万人分の備蓄があります。

■政府・各自治体が発表する情報に十分注意して、冷静な対応をお願いいたします。

【新型インフルエンザに関する各都道府県・政令指定都市の相談窓口】

北海道	011-204-5259	埼玉県	048-830-3572	山梨県	055-223-1494	和歌山県	073-441-2643	佐賀県	0120-82-1025
青森県	017-734-9284	埼玉県	048-830-3557	長野県	026-235-7148	鳥取県	0857-26-1154	長崎県	095-895-2046
岩手県	019-629-5466	千葉県	043-223-2665	岐阜県	058-272-1111	島根県	0852-22-6131	熊本県	096-333-2240
岩手県	019-629-5472	千葉県	043-223-2675	静岡県	054-221-8560	岡山県	086-273-8092	大分県	097-506-2669
宮城県	022-211-2632	東京都	03-5320-4509	愛知県	052-954-6272	広島県	082-228-2154	宮崎県	0120-793-089
宮城県	018-860-1425	神奈川県	045-633-3777	三重県	059-224-2339	山口県	083-933-2956	鹿児島県	099-286-2724
山形県	023-630-2315	新潟県	025-280-5200	滋賀県	077-528-4983	徳島県	088-621-2228	沖縄県	098-866-2185
福島県	024-521-7895	富山県	076-444-3225	東京都	075-414-4726	香川県	087-832-3303		
茨城県	029-301-4601	石川県	076-225-1438	大阪府	06-6944-6791	愛媛県	089-312-2400		
栃木県	028-623-3089	福井県	0776-20-0701	兵庫県	078-362-3226	高知県	088-823-8092		
群馬県	027-226-2617	福井県	0776-20-0703	奈良県	0742-27-8656	福岡県	092-643-3279		
札幌市	011-622-5199	千葉市	043-239-1792	新潟市	025-212-8194	京都市	075-222-3421	岡山市	086-003-1262
仙台市	022-214-6029	千葉市	043-238-9920	静岡市	054-249-3173	大阪市	06-6647-0956	広島市	082-504-2622
さいたま市	048-840-2220	横浜市	045-671-4183	浜松市	053-453-6118	堺市	072-228-7023	北九州市	0120-123-115
		川崎市	044-200-2692	名古屋市	052-972-2631	神戸市	078-335-2151	福岡市	092-761-7328

※対応時間は各窓口により異なります。

【新型インフルエンザに関する厚生労働省の電話相談窓口】 03-3501-9031 (受付時間 9:00～21:00 土曜日・日曜日・祝日を含む。)

【新型インフルエンザに関する詳しい情報は】

首相官邸ホームページ <http://www.kantei.go.jp> 厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp>

ひとり一人が感染拡大を防ぐ！

新型インフルエンザの予防には、こまめな手洗いとうがいが有効です。かかったと思ったら、マスク等の咳エチケットと外出自粛をお願いします。基礎疾患（ぜんそく、糖尿病など）を持つ方や妊婦さんは、早期に受診して下さい。詳しくは厚生労働省HPまで。

厚生労働省

新型インフルエンザ ワクチン接種について

知っていただきたいこと、ご理解いただきたいこと

新型インフルエンザの特徴

感染力は強いのですが、多くの感染者は軽症のまま回復しており、治療薬(タミフル・リレンザ)が有効です。ただし、基礎疾患(糖尿病、ぜん息など)のある方、妊婦さんや子どもさんは重症化する可能性があり、注意が必要です。

ワクチン接種の効果

今回の新型インフルエンザワクチンには、重症化や死亡の防止には一定の効果も期待されます。ただし、感染を防ぐ効果は証明されておらず、接種したからといって、感染しないわけではありません。

ワクチンの有効性・安全性

国内産ワクチンの安全性は、長年接種されてきた季節性インフルエンザワクチンと同程度と考えられ、有効性もある程度期待されます。輸入ワクチンに関しては、海外で承認されていることを前提として、有効性・安全性を確認して、実際の接種を始めます。

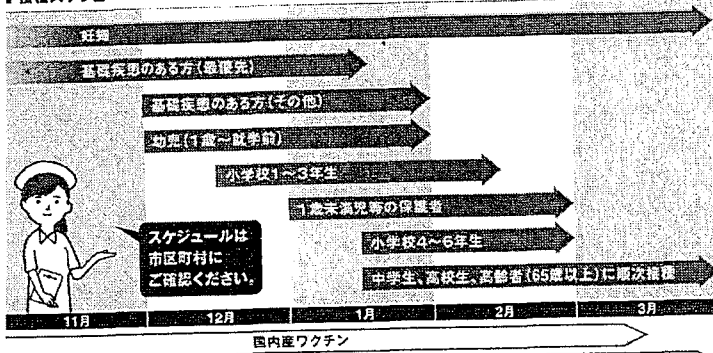
ワクチン接種には、発症、重症化、死亡を抑える効果が期待できます。

ワクチン接種は、多くの方に重症化予防というメリットをもたらしますが、接種後、腫れたり、発熱の症状が出たり、まれに重篤な症状を引き起こす可能性もあります。この点をご理解のうえ、個人のご判断により接種を受けていただくようお願いいたします。接種回数は、すでに接種が開始されている医療従事者を除き、現在2回としていますが、今後、国内データや海外の知見など科学的根拠に基づき、1回にできるか検討します(13歳未満の方は2回です)。結果は速やかにお知らせします。

優先的に接種できる方々

新型インフルエンザワクチンは、順次、生産されていくため、優先的に接種できる方々と接種の標準的なスケジュールを決めさせていただきました。なお、このスケジュールは、対象者が全員接種(2回接種)すると仮定した場合のもので、特に接種回数については、現在検討中であり、実際には前倒しになることもあります。

接種スケジュール



※上記以外の方々の接種については、上記の方々の接種状況を踏まえ、対応していきます。
※「基礎疾患のある方(最優先)」とは、基礎疾患を有する方のうち、「1歳~小学校3年生」および「特に重症化リスクが高いとして、一定の基準に該当するものと医師が判断した方」です。

接種までの流れ

スケジュールと場所の確認

優先接種の対象者は、お住まいの市区町村にお問い合わせいただき、接種スケジュールと接種を行っている医療機関などを確認してください。

提示書類の用意

実際に接種を受けるときには、窓口で書類の提示が必要です。あらかじめご準備ください。(書類一覧は下表参照)。

予約

接種を行っている医療機関などに予約を入れてください。ただし、医療機関によっては、予約は不要です。詳しくは、各医療機関にお問い合わせください。

接種

接種後、接種部位に腫れなどの症状が出るかもしれませんが、ほとんどは軽い一過性の症状でおさまりますが、気になる症状が出たり長引いたりする時は、医師にご連絡ください。

主な提示書類リスト

(下記のとおり「か」がつくと提示ください。)

基礎疾患のある方	「優先接種対象者証明書(かかりつけ医で発行)」等 ※かかりつけ医が接種する場合は必要ありません。
妊婦	「母子健康手帳」等
幼児(1歳~就学前)および小学校1~3年生	「母子健康手帳」「各種健康保険被保険者証」等
1歳未満の小児の保護者	「母子健康手帳」「各種健康保険被保険者証」「住民票」等
優先接種対象者のうち、身体上の理由で予約接種できない方の保護者等	「優先接種対象者証明書(かかりつけ医で発行)」 「各種健康保険被保険者証」「住民票」等
小学校4年生から高校生に相当する年齢の方	「各種健康保険被保険者証」「学生証」「住民票」等
高齢者(65歳以上)	「各種健康保険被保険者証」「運転免許証」「住民票」等

接種場所

内科、小児科、産婦人科等の医療機関で受けられます。市区町村によっては、保健センター等で受けられる場合もあります。接種を行っていない医療機関もあるのでご注意ください。

接種費用

全国一律で実費を徴収させていただきます。所得の少ない世帯に対しては、費用負担を軽減いたします。

1回目	3,600円
2回目	2,550円
2回目の接種が1回目と異なる医療機関での接種は3,600円	

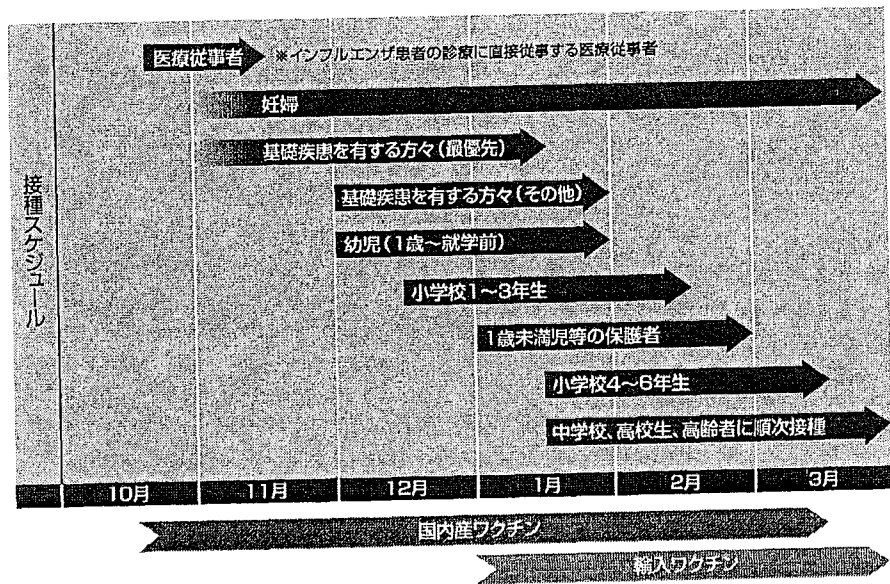
広報は、10月20日時点の情報による決定事項をお伝えしています。とも国や自治体の発表する情報にご注意いただき、冷静に対応していただくようお願いいたします。

詳しくは、お住まいの都道府県・市区町村まで。厚生労働省 新型インフルエンザ

厚生労働省 新型インフルエンザ

優先的に接種できる方々について.....

新型インフルエンザワクチンは、順次生産されていくため、より必要性の高い方々が早く接種できるような工夫が求められます。そこで、ワクチンの重症化予防という効果をふまえ、以下のとおり優先的に接種できる方々と接種の標準的なスケジュールを決めさせていただきました。なお、このスケジュールは対象者が全員接種（医療従事者を除き2回接種）すると仮定した場合のもので、したがって、実際にはこのスケジュールは前倒しになることも考えられます。接種回数については現在（10月20日）検討中です。具体的なスケジュールについては〇〇〇〇にお問い合わせください。



※ 上記以外の方々への接種については、上記の方々への接種状況をふまえ、対応していきます。
 ※ 「基礎疾患を有する方々(最優先)」とは、1歳から小学校3年生の方々ととくに重症化のリスクが高い方々として、一定の基準に該当すると医師が判断した方々です。

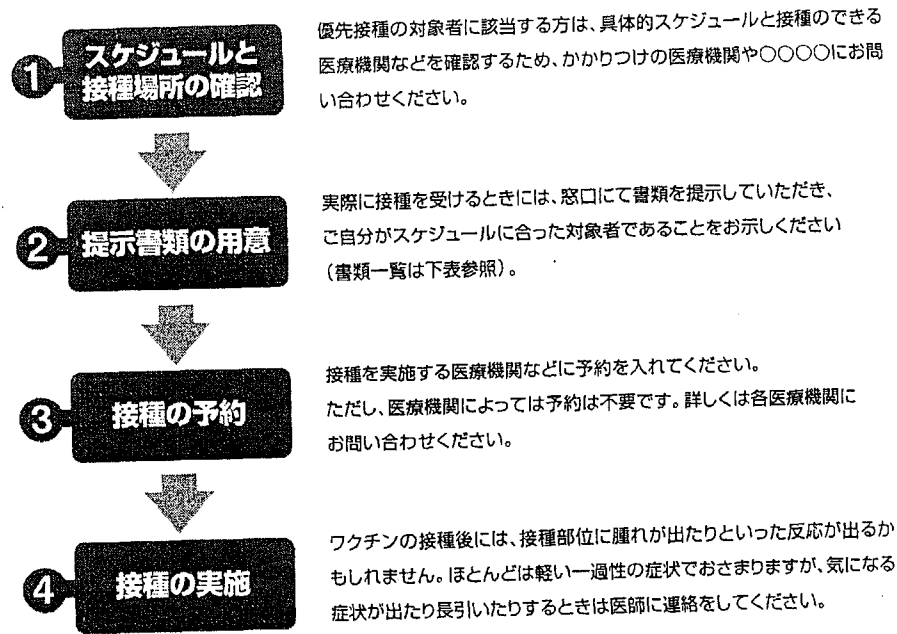
接種場所について.....

内科、小児科、産婦人科などの医療機関で受けられます。また、市町村によっては保健センター等で受けられる場合もあります。接種を行っていない医療機関もありますので詳しくは〇〇〇〇にお問い合わせください。

接種費用について.....

接種費用は実費を払っていただきます。2回接種の場合、全国一律で1回目=3600円、2回目=2550円(1回目と異なる医療機関で接種する場合は3600円)となります。なお、所得の少ない世帯に対しては、費用負担の軽減を実施いたします。詳しくは〇〇〇〇にお問い合わせください。

接種までの流れ.....



提示書類リスト

① 基礎疾患を有する方々	「優先接種対象者証明書(かかりつけ医で発行)」 ※かかりつけ医で接種する場合は必要ない。
② 妊婦	「母子健康手帳」
③ 1歳から小学校3年生	「母子健康手帳」又は「各種健康保険被保険者証」
④ 1歳未満の小児の保護者	「母子健康手帳」、「各種健康保険被保険者証」又は「住民票」
⑤ 優先接種対象者の内、 身体上の理由で予防接種できない者の保護者等	「優先接種対象者証明書(①の場合と同じ)」、 「各種健康保険被保険者証」又は「住民票」
⑥ 小学校4年生から高校生に相当する年齢の方々	「各種健康保険被保険者証」、「学生証」又は「住民票」
⑦ 65歳以上の方々	「各種健康保険被保険者証」、「運転免許証」又は「住民票」

国内産・輸入ワクチンの有効性

● 重症化や死亡の防止に一定の効果

どのワクチンも、現在、国内で使用されている季節性インフルエンザワクチンと同様、重症化や死亡の防止について一定の効果が期待できます。ご注意くださいたいのは、打てばかからなくなる、というわけではないことです。感染防止効果を保証するものではありません。

< 国内臨床試験におけるHI抗体価の抗体陽転率、抗体保有率（成人1回目接種後約3週間） >

略称	輸入	輸入	国内産
	GSK社製ワクチン	ノバルティス社製ワクチン	国産H1N1ワクチン
臨床試験の対象者数	100人	98人	100人
対象年齢	20～64歳	20～60歳	20～59歳
抗原量/アジュバント	3.75μg/有	3.75μg/有	15μg/無
抗体陽転率*1	94.0%	78.6%	73.5%
抗体保有率*2	95.0%	80.6%	78.6%

*以上の臨床試験結果は各製剤ごとに行われたものです。したがって厳密な意味でこれらの数値を同様に比較することは適切ではありません。あくまで目安として示しています。*1:ウイルスに対して体を守るのが免疫ですが、その働きを強さを表すひとつの指標が抗体の値です。抗体陽転率とは、この値が一定程度以上上昇した人の割合を示します（HI抗体価が接種前10未満で、ワクチン接種後に40以上、または接種前10以上でワクチン接種後に4倍以上に増加した被験者の割合）*2:抗体保有率はHI抗体価がワクチン接種後に40以上になった被験者の割合です。

これからの接種をお考えのみなさまへ

新型インフルエンザ ワクチン接種について

知っていただきたいこと、ご理解いただきたいこと

このパンフレットは、接種について判断するにあたり、国内産および輸入ワクチンについて事前にご理解いただきたいポイントをまとめたものです。

● 希望する方は、みなさん接種が受けられます

新型インフルエンザには、こまめな手洗いなどにより予防に努めたり、かかってしまっても、抗インフルエンザウイルス薬の服用など適切に治療を受けることなどにより対応することが可能です。そのなかでワクチンの接種は、かかってしまっても重症になつたり、お亡くなりになる危険性を減らす効果を期待して行われます。これまでの接種は、ワクチンの供給が順次行われ、また量的にも国民全員分は確保されていなかったことから、重症化リスクの高い方々などを優先してきましたが、輸入ワクチンが特例承認され、十分な量のワクチンが確保されたことから、希望される方すべてが接種できるようになりました。

*特例承認とは、疾病のまん延等を防止するため、緊急の使用が必要な医薬品で、日本と同等の水準の承認制度を有すると認められる外国において承認されているものについて、通常の手続きを簡素化して承認する制度です。

● インフルエンザワクチンを接種する意味とは

新型インフルエンザの患者数は、全国的には減少傾向ですが、一部増加している地域もあり油断はできません（2010年1月29日時点）。また、過去のパンデミックインフルエンザでは、一度流行が終息した後、再流行が起きた例があり、今回もその可能性が否定できません。したがって、現在でも（2010年2月以降）ワクチンを接種する意味はあるものと考えております。*新型インフルエンザワクチンの具体的な有効性については次ページ以降をご覧ください。

● 接種に当たっては効果とリスクをご考慮ください

ワクチン接種は多くの方々に重症化予防というメリットをもたらしますが、接種後、熱が出たりはれたりという症状が出ることもあり、まれではあります。重篤な副作用を引き起こす可能性もあります。この点をご理解いただいたうえで、個人の判断により接種を受けていただくようお願いいたします。

接種場所・予約・費用など

- 接種できる医療機関は市区町村の広報誌やホームページでご確認ください。
- 輸入ワクチンが接種できる医療機関についても市区町村の情報でお確かめください。
- 接種の費用は1回3600円です。2回接種の場合、1回目と同じ医療機関でなら2回目は2550円、異なる医療機関だと3600円です。
- 接種前には必ず医療機関に予約を入れてください。
- 接種時にはご自分が選んだワクチンについての説明をよく聞いていただき、理解・同意をした上で接種を受けてください。
- 以下のケースでは接種が行えない場合があります。

接種不可者 次のいずれかの場合には予防接種を受けることができません

- (1) 明らかな発熱を呈している方
- (2) 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- (3) 本剤の成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな方
- (4) 上記に掲げる方のほか、予防接種を行うことが不適当な状態であると医師に判断された方

接種の注意

ワクチン接種の当日は過激な運動を避け、接種した部位を清潔に保ち、また、接種後の体調管理をしっかり行ってください。もし、局所の異常反応や体調の変化、さらに高熱、けいれんなどの異常な症状を呈した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。

お問い合わせは お住まいの都道府県又は市区町村の新型インフルエンザ対策担当まで

電話相談窓口（受付日： / 受付時間：00時～00時）
Tel.000-000-0000 Fax.000-000-0000

● さらに詳しい情報は「厚生労働省ホームページ」へ
厚生労働省トップ ▶ 新型インフルエンザ対策関連情報 ▶ ワクチン関連情報

流行情報については
右記のホームページにて
ご覧いただけます。

厚生労働省「新型インフルエンザ対策関連情報」
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/index.html>
感染症研究所 感染症情報センター
http://idsc.nih.go.jp/disease/swine_influenza/index.html

接種することのできる新型インフルエンザワクチンには、以下の表に示す国内産と輸入、あわせて3つがあり、各ワクチンにはそれぞれの特徴があります。ただし、どの医療機関でも3つをそろえているわけではありませんから、どのワクチンを接種できるかは事前に自治体や医療機関にお確かめください。

< 輸入ワクチンと国内産ワクチンの特徴比較 >

	輸入	輸入	国内産
名称	アレバンリックス(H1N1)筋注	乳濁細胞培養A型インフルエンザHAワクチンH1N1「ノバルティス」筋注用	国産H1N1ワクチン
製造販売業者	グラクソ・スミスクライン株式会社	ノバルティスファーマ株式会社	(4社)
製造方法	鶏卵培養	細胞培養	鶏卵培養
投与経路	筋肉内注射	筋肉内注射	皮下注射
アジュバント	あり	あり	なし
用法・用量	6か月～9歳 0.25mL 1回 10歳以上 0.5mL 1回	3～17歳 0.25mL 2回 18～49歳 0.25mL 1回 50歳以上 0.25mL 2回	1歳未満 0.1mL 2回 1～6歳未満 0.2mL 2回 6～13歳未満 0.3mL 2回 13歳以上 0.5mL 1回
接種間隔	—	少なくとも3週間	1週間から4週間 (4週間置くことが望ましい)

国内産との比較における輸入ワクチンの特徴

● 輸入ワクチンに含まれるアジュバントとは

アジュバントとは、免疫反応を増強する物質（免疫補助剤）です。ワクチンの主要成分（抗原）の必要量を減らすことと、ワクチンの効き目を高めるために使われています。同じワクチンの量でもより多くの方への接種を可能とします。今回の輸入ワクチンのようにアジュバントが入っているワクチンは一般的に、副反応の発生する確率が高いことが指摘されています。

● 細胞培養という製造方法

細胞培養はワクチンの製造方法の一種です。国内産ワクチンの製造方法である鶏卵による培養より生産効率が高いとされています。ただし、この製造方法はインフルエンザワクチンではこれまで世界で広く使用されるにはいっていません。また、ノバルティス社の製剤の製造に使用される細胞には、動物の体内でその細胞自体が増殖する性質がありますが、がんをひき起こす作用（がん原性）はなく、細胞は製造工程で除去されること、この細胞の溶解液またはDNAにはがん原性が認められなかったこと、鶏卵培養のインフルエンザワクチンと細胞培養のインフルエンザワクチンで副反応の発現頻度等に大きな違いはないことから、安全性に問題はないとされています。また、この細胞の安全性については、WHO（世界保健機関）などが定めた指針に従って確認されています。

● 用法・用量・接種回数と接種間隔に注意を

国内産と輸入ワクチンとでは用法・用量・接種間隔がそれぞれ異なります。なお、いずれの種類でも他の生ワクチンをすでに接種した方は、通常、27日以上、他の不活化ワクチンの接種を受けた方は、通常、6日以上の間隔を置いてから接種してください。

国内産・輸入ワクチンの安全性

● 副反応については十分にご理解を

ワクチン接種の目的は「免疫の付与」ですが、接種後にそれ以外の反応が発生した場合、これを副反応と呼びます。たとえば季節性インフルエンザワクチンでは、局所反応（赤くなる、腫れる、鈍く痛むなど）や全身反応（熱が出る、寒気がする、頭痛、倦怠感、嘔吐など）があり、これらは通常2～3日で消えます。まれにはありますが、重篤な副反応も起こる可能性があり、ショックやアナフィラキシー様症状、急性散在性脳脊髄炎、ギランバレー症候群などが知られています。

< 国内臨床試験における1回目接種後7日間の主な副反応（成人） >

	輸入	輸入	国内産
略称	GSK社製ワクチン	ノバルティス社製ワクチン	国産H1N1ワクチン
臨床試験の対象者数	100人	98人	100人
対象年齢	20～64歳	20～60歳	20～59歳
主な副反応	注射部位の疼痛	98%	68%
	注射部位の発赤	7%	17% (紅斑)
	注射部位の腫脹	17%	3%
	全身倦怠感	46%	3%
	頭痛	35%	14%
	関節痛	14%	2%
	筋肉痛	44%	2%
重篤な副反応*	重篤な副反応なし	重篤な副反応なし	2件 (注：重篤な副反応)

* 以上の臨床試験結果は各製剤ごとに行われたものです。したがって厳密な意味でこれらの数値を同列に比較することは適切ではありません。あくまで目安として示しています。* 一般的にアジュバント（免疫補助剤）を含むワクチンは、副反応の発生する確率が高くなることが指摘されています。今回の輸入ワクチンも、注射した部位の痛み（疼痛）などの副反応が、国内産ワクチンより高い頻度で、またGSK社製ワクチンについては、一部強く出る傾向がみられました。※：1回目の接種後21日までの結果です。

● 国内産ワクチンの副反応は

国内産の新型インフルエンザワクチンは、接種開始からこれまで（平成22年1月25日時点）に最大で2,036万人（医療機関に納入されたワクチンの数からの推定接種者数）が接種を受け、副反応の報告が0.01%ありました。そのうち重篤な副反応*は0.002%でした。

※：重篤な副反応：死亡、障害、またそれらにつながるおそれ、治療のために入院または入院期間の延長をきたした場合などです。

● 重篤な副反応が発生した時の「健康被害救済制度」

新型インフルエンザワクチンの接種によって、何らかの健康上の問題（健康被害）が生じたときは、医療費などを給付する救済制度が適用されます。入院を必要とする程度の医療を受けた場合や、一定程度の障害が残った場合、亡くなられた場合などにこの制度を利用できます。

健康被害救済制度の相談窓口（厚生労働省）

Tel.03-3501-9060 Fax.03-3501-9044

受付日：平日/受付時間：10時～18時

急な発熱と咳(せき)やのどの痛み

「インフルエンザかな？」 症状がある方々へ

受診と療養の手引き

はじめに

通常のインフルエンザは、毎年秋以降に流行しますが、今年は豚に由来する新型インフルエンザが発生していることから、秋以降には通常のインフルエンザと新型インフルエンザが重なって流行するものと考えられています。

現在流行している新型インフルエンザは、感染したほとんどの方は比較的軽症のまま数日で回復していますが、持病のある方々など、感染することで重症化するリスクのある方がいることが、ある程度分かってきています。

そこで、急な発熱と咳(せき)やのどの痛みなど、インフルエンザの症状を自覚されている方々、あるいは医師により診断されている方々は、なるべく他の人にうつさないようご協力をお願いしています。

この手引きは、インフルエンザに感染している可能性がある方が、医療機関を受診する方法や、他の人にうつさないようにしながら自宅療養する方法について解説しています。

ここに書かれていることをすべて行ったとしても、周囲への感染の可能性が完全なくなるわけではありません。しかし、できることから丁寧に実践していただくことで、周囲を守るという配慮を重ねていただければと思います。

新型インフルエンザに感染すると重症になるのですか？



いいえ、ほとんどの方が軽症で回復しています。

ただし、持病がある方々のなかには、治療の経過や管理の状況によりインフルエンザに感染すると重症化するリスクが高いと判断される方がいます。とくに次の持病がある方々は、手洗いの励行、うがい、人混みを避けるなどして感染しないように注意してください。また、周囲の方々も、感染させないように配慮するようにしましょう。

- 慢性呼吸器疾患
- 慢性心疾患
- 糖尿病などの代謝性疾患
- 腎機能障害
- ステロイド内服などによる免疫機能不全

さらに、次に該当する方々についても、インフルエンザが重症化することがあると報告されています。感染予防を心がけ、かかりつけの医師がいる方は、発症時の対応についても相談しておきましょう。

- 妊婦
- 乳幼児
- 高齢者

熱が出ていて咳（せき）もあります 病院を受診する必要がありますか？



必ず受診しなければならないわけではありません。症状が比較的軽く、自宅にある常備薬などで療養できる方は、診療所や病院に行く必要はありません。ただし、前のページで紹介した持病のある方々など、感染することで重症化するリスクのある方は、なるべく早めに医師に相談しましょう。

また、もともと健康な方でも、次のような症状を認めるときは、すぐに医療機関を受診してください。

小児

- 呼吸が速い、息苦しそうにしている
- 顔色が悪い（土気色、青白いなど）
- 嘔吐や下痢がつづいている
- 落着きがない、遊ばない、反応が鈍い
- 症状が長引いていて悪化してきた

大人

- 呼吸困難または息切れがある
- 胸の痛みがつづいている
- 嘔吐や下痢がつづいている
- 3日以上、発熱が続いている
- 症状が長引いていて悪化してきた

病院に行くことにしました どこの病院を受診すればよいのでしょうか？



受診する医療機関の発熱患者対応の診療時間や入り口などが分かっていますか？ もし、分からない場合には、まず電話をしてから受診方法について相談しましょう。

発熱患者の診療をしている医療機関がどこにあるか分からない方

☞ 保健所などに設置されている発熱相談センターに電話をして、どの医療機関に行けばよいか相談しましょう。

発熱患者の診療をしている近隣の医療機関が分かっている方

☞ 発熱患者の診療をしている医療機関に電話をして、受診時間などを聞きましょう。事前に電話をしないまま、直接行かないように気をつけましょう。

慢性疾患などがあってかかりつけの医師がいる方

☞ かかりつけの医師に電話をして、受診時間などを聞きましょう。事前に電話をしないまま、直接行かないように気をつけましょう。

妊娠している方

☞ かかりつけの産科医師に電話をして、受診する医療機関の紹介を受けましょう。産科医師が紹介先の医師にあなたの診療情報を提供することがあります。

呼吸が苦しい、意識が朦朧としているなど症状が重い方

☞ なるべく早く入院設備のある医療機関を受診しましょう。必要なら救急車（119番）を呼びますが、必ずインフルエンザの症状があることを伝えます。

自宅で療養しています 家族が同居しているのですが どのような注意が必要ですか？



同居している家族への感染を確実に予防することは困難です。ただし、なるべく感染しないように、以下のことを心がけてください。

患者であるあなたは・・・

- 咳エチケット（次のページ）を守りましょう
- 手をこまめに洗いましょう
- 処方されたお薬は指示通りに最後まで飲みましょう
- 水分補給と十分な睡眠を心がけましょう

患者の同居者は・・・

- 患者の看護をしたあとなど、手をこまめに洗いましょう
- 可能なら患者と別の部屋で過ごしましょう
- マスクの感染予防効果は限定的ですが、患者と接するときには、なるべくマスクを着用しましょう

※ 患者の使用した食器類や衣類は、通常の洗濯・洗浄及び乾燥で消毒できます

とくに、持病があったり、妊娠している方などが同居している場合には、なるべく別の部屋で過ごすようするなど、より確実な感染予防を心がけてください。また、念のためかかりつけの医師に相談しておきましょう。医師の判断により、予防のためのお薬が処方されることがあります。

咳（せき）エチケット

1. 周囲の人からなるべく離れてください。

咳やくしゃみのしぶき（飛沫）は約2メートル飛ぶと言われています。

2. 咳やくしゃみをするときは、他の人から顔をそらせ、ティッシュなどで口と鼻を覆いましょう。

他の人にしぶき（飛沫）をかけないように心がけましょう。マスクをしていない場合には、ティッシュなどで口と鼻を覆うことも大切です。使ったティッシュはすぐにゴミ箱へ捨てましょう。

3. 咳やくしゃみを抑えた手を洗いましょう。

咳やくしゃみを手で覆ったら、手を石鹸で丁寧に洗いましょう。

4. マスクを着用してください。

咳、くしゃみが出ている間はマスクを着用しましょう。使用後のマスクは放置せず、ゴミ箱に捨てましょう。

※ 咳エチケットに加え、周囲への感染予防では、手洗いも大切です。石鹸を使って15秒以上かけて洗いましょう。洗った後は清潔なタオルやペーパータオルなどで十分に拭き取りましょう。

自宅で療養しています 熱がさがったので外出してもいいですか？



熱がさがっても、インフルエンザの感染力は残っていて、あなたは他の人に感染させる可能性があります。完全に感染力がなくなる時期については、明らかでなく、個人差も大きいと言われる。少なくとも次の期間は外出しないように心がけましょう。

熱がさがってから2日目まで

ただし、現在流行している新型インフルエンザについては、発熱などの症状がなくなってからも、しばらく感染力がつづく可能性があることが、様々な調査によって明らかになっています。

ですから、あなたが新型インフルエンザに感染していると診断されている場合や、あなたの周囲で新型インフルエンザが流行している場合には、発熱などの症状がなくなっても、周囲の方を守るため、さらに次の期間についてもできるだけ外出しないようにしてください。

発熱や咳（せき）、のどの痛みなど 症状がはじまった日の翌日から7日目まで

ご協力に感謝いたします。

さらに詳しい情報について

厚生労働省・新型インフルエンザ関連対策情報

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou04/>

国立感染症研究所・感染症情報センター

http://idsc.nih.go.jp/disease/swine_influenza/

都道府県による新型インフルエンザ相談窓口一覧

<http://www.mhlw.go.jp/kinkyu/kenkou/influenza/090430-02.html>

平成21年7月



厚生労働省

厚生労働省では、
一般の方からの電話相談窓口を開設しています

- | | |
|--------|--------------|
| ○受付 | 当面の間は平日のみ |
| ○電話番号 | 03-3501-9031 |
| ○FAX番号 | 03-3501-9044 |

※ 一般的なご相談にお答えしています。医学的なご質問や症状のある方のご相談は、かかりつけの医師または保健所などに設置されている発熱相談センターへおかけください。

新型インフルエンザ対策 (A/H1N1)

感染しない 感染してもひどくならないために

ぜんそく

などの呼吸器疾患のある人へ

このパンフレットは、ぜんそくなどの呼吸器疾患のある人や周囲の人が、新型インフルエンザ(A/H1N1)の予防や受診に必要な情報を共有するために作成しました。

感染力が強く、世界中で流行

新型インフルエンザ(A/H1N1)は、2009年春に最初の感染が確認され、現在、日本国内で本格的な流行を迎えています。このインフルエンザは動物由来のウイルスが変異し、ヒトからヒトへと容易に感染するようになったものです。毎年流行する季節性インフルエンザとの違いは、新型のウイルスで私たちが体内に免疫を持っていないため、感染しやすいことです。

この新型インフルエンザには、鳥インフルエンザ(H5N1)で予測されたような高い病原性はいまのところみられません。しかし、短期間のうちに世界的流行

となったことからわかるように、強い感染力があると考えられています。

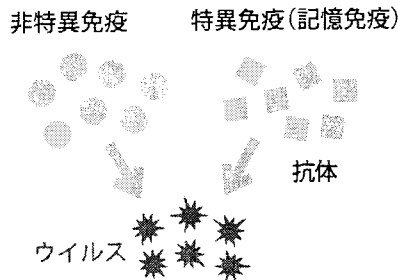
感染者が増えれば、それにとまって重症患者の増加が心配されます。特に、ぜんそくなどの呼吸器疾患のある人は重症になりやすいといわれています。そのため十分な予防と観察が必要です。

かかり始めの症状は、発熱や体のだるさ、鼻汁、せき、のどの痛みなど、季節性インフルエンザと見分けが付きません。これらの症状がみられたら、すぐにかかりつけの医師に相談するなど早めに対処をしましょう。

<インフルエンザと闘う体内の免疫機構のしくみ> (イメージ図)

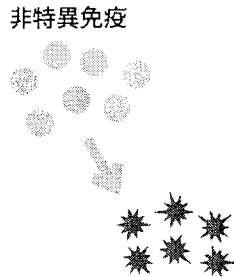
非特異免疫……生物が異物を排除するためにもともと持っている免疫機構
特異免疫(記憶免疫)……過去の感染やワクチンから後天的にできる免疫機構(抗体)

季節性インフルエンザ



従来の季節性インフルエンザに対しては体内の免疫で闘うことができる。抗体があるため、かかっても軽くすむことが多い。

新型インフルエンザ



新型インフルエンザは特異免疫が働かず、非特異免疫だけで対応する。抗体がないため、非常に感染しやすい。

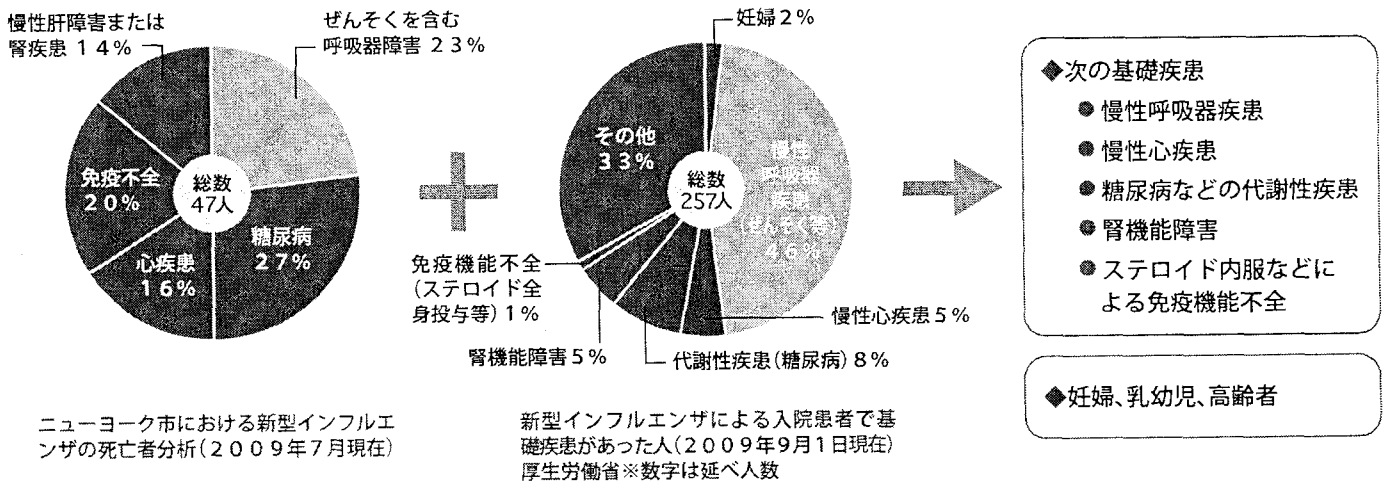
ぜんそくを含む呼吸器疾患はインフルエンザが重症になりやすい

下の図に示すように、厚生労働省から発表された9月1日(2009年)現在のデータでは、新型インフルエンザによる入院患者で、基礎疾患があった人の半数近くが、ぜんそくを含む慢性呼吸器疾患のある人でした。また、ニューヨーク市における事例では、インフルエンザによる死亡者数の約1/4が、ぜんそくを含む呼

吸器疾患のある人です。

その理由はまだはっきりとわかっていません。しかし、こうしたデータにより、国内でも、ぜんそくなどの呼吸器疾患は、インフルエンザ重症化のリスクが高い基礎疾患の一つと考えられています。

ニューヨーク市における死亡者分析と、国内でのこれまでの事例から、インフルエンザが重症化しやすい人たちがわかってきています。



日頃のぜんそくのコントロールが大切です

ぜんそくなどの呼吸器疾患のある人は、空気の通り道である気道と肺に慢性的な炎症があります。新型インフルエンザに感染すると、インフルエンザの症状が進むとともに、ぜんそくの発作や呼吸困難も起こりやすくなり、それによって気道や肺の状態がさらに悪くなって、症状が重くなりやすいのです。

うがいや手洗いなど基本的なインフルエンザ予防

と同時に、重症化を防ぐためには、慢性的な炎症を放置せず、ぜんそくのコントロールをしっかり行い、発作を起こさない状態を保つことがとても大切です。

かかりつけ医を定期的に受診しながら吸入ステロイド薬などによる治療を行い、十分な睡眠、疲れすぎないことなど、基礎的な体調管理を心がけましょう。

まず、かかりつけ医に受診の相談。かかりつけ医がいない人は？

インフルエンザなどの感染症に備えるためにも、ぜんそくの症状があったらかかりつけ医をもつことはとても大切です。

かかりつけ医がいない場合はまず、呼吸器科などぜんそくをみってくれる医療機関を見つけておきましょう。同時に、受診先を都道府県の新型インフルエンザ相談窓口や保健所に設置されている発熱相談センターな

どに確認し電話番号を控えておきます。インフルエンザの症状を感じて受診をする時には事前に電話をし、必ず「ぜんそく患者であること」を伝えます。

もちろん、じっとしていても息苦しいとか、喘鳴(ヒューヒュー、ゼーゼー)がひどいなどの状態がある時はがまんせず、救急車で受診してください。

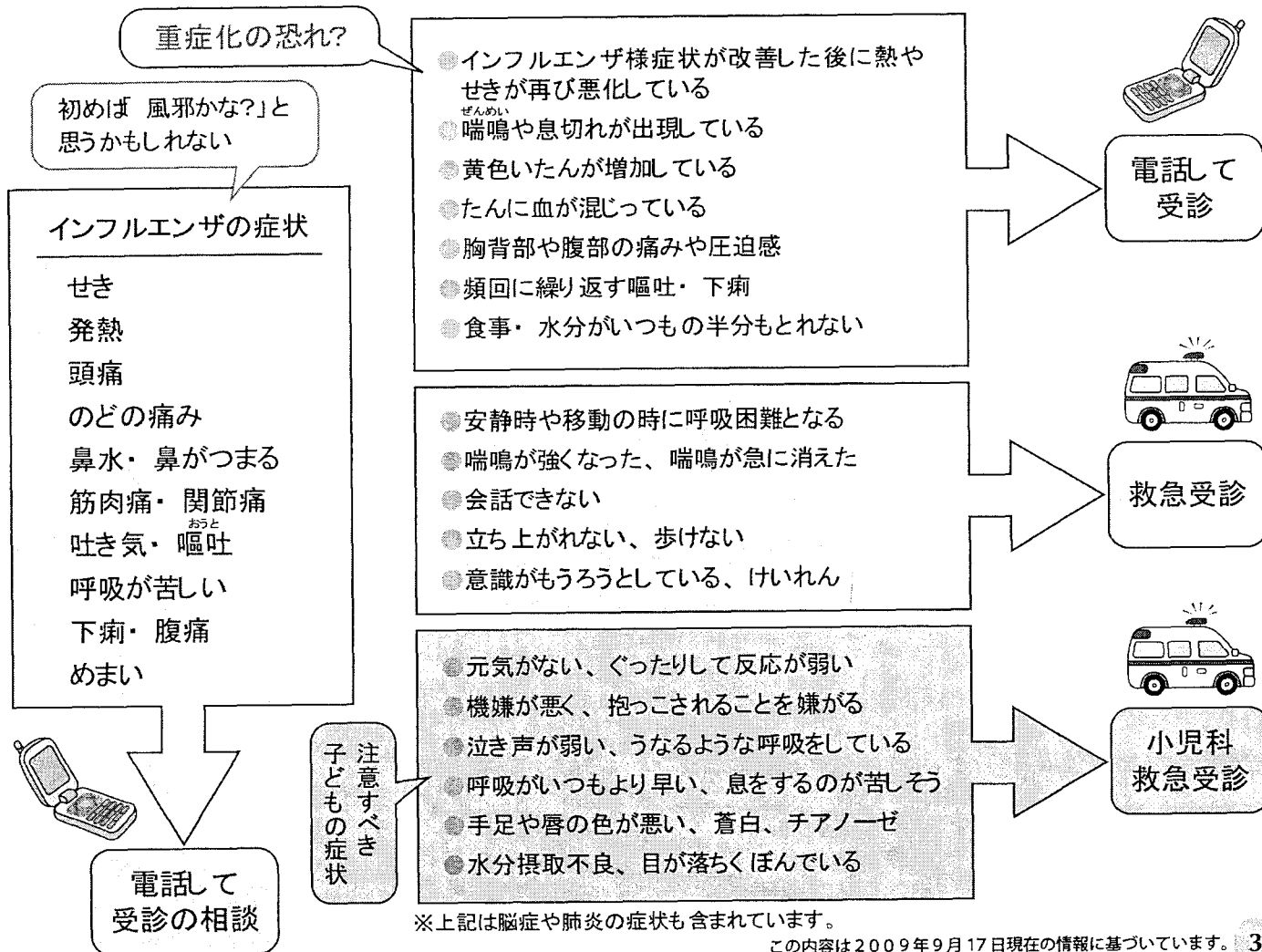
インフルエンザの症状を感じたら、すぐに受診の相談を

症状は急変するかもしれません。高齢者、一人暮らしの人、病院が遠い人は早めに対処しましょう。

調べて書き込んでおく	かかりつけ医 ぜんそくをみてる病院	TEL	FAX
	地域の救急指定病院 夜間・休日診療施設など	TEL	FAX
	新型インフルエンザ相談窓口	TEL	FAX
あなたや家族が医療機関に必ず伝えるべきこと	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>インフルエンザの症状のある「ぜんそく患者」だということを伝える</u> 「今の状態や苦しさ」 「いつから具合が悪くなったのか」 「どのような症状が、どのように変化しているか」具体的に 		
用意しておくもの 持っていくもの	<ul style="list-style-type: none"> ● ぜんそくの症状の変化と使った薬の名前を記録する ● 保険証、おくすり手帳、ぜんそく日記・ぜんそくカードやインフルエンザ必携カード(P5) ● 受診の時はマスクをしましょう 		

受診のタイミング～こんな症状を感じたら受診を～

※息苦しさなどぜんそくの症状はがまんせず、処方されている治療薬を早めに使いましょう



新型インフルエンザのワクチン(予防接種)について

体の持つ免疫のメカニズムの中で、ウイルスをたたくのは「抗体」の働きです。この抗体をあらかじめつけておこうというのがワクチン(予防接種)です。ワクチンを接種しておく、感染しても抗体の働きで症状が重くなるのを防ぐことに貢献できます。ただ、ワクチンですべての人に効果が期待できるわけではありません。手洗いやうがいをごまめにするなど、基本的な予防は忘れないようにしましょう。

現在、開発中の新型インフルエンザ(A/H1N1)ワクチンの効果は、まだ十分にはわかっていません。

ワクチンの接種にあたっては、その期待される効果やリスクについて医師とよく相談し、接種するかしないかを判断しましょう。また、ワクチンを接種する時は、接種後30分程度は医療機関内にとどまり、経過をみることをおすすめします。

卵を含む加工品を食べられる人はワクチン接種も可能

国内産のインフルエンザワクチンは製造過程でニワトリの卵を使います。ワクチンに残存する卵白アルブミンは数ナノグラム(1ナノグラム=10億分の1グラム)ときわめて微量ですが、卵アレルギーのある人は、ワクチンの接種には注意が必要とされています。

ただし、卵アレルギーのある乳幼児(卵白RAST3以上)であっても、卵を含む加工品を食べられるならば、重い副作用を引き起こす危険性はほとんどなく、安全に接種できるとも報告されています。

「アレルギーがあるからワクチンは使えない」ということではありません。以前に卵でアレルギー症状を経験したことのある人は、まず医師に相談してください。アレルギー反応をみる皮内テストや、分割接種などを行う方法もあります。

また、ワクチンを接種していなくても、感染した場合はタミフルやリレンザなどの治療薬で、症状を抑えることができます。

ぜんそくの人と抗ウイルス薬

インフルエンザの治療には、体内でのウイルスの増殖を阻止する抗ウイルス薬であるタミフル(飲み薬)とリレンザ(吸入薬)が使われています。

新型インフルエンザ(A/H1N1)では、現時点では、世界の感染者のほとんどは軽症であり、その多くは抗ウイルス薬の投与がなくても1週間以内に回復しています。しかし、重症化のリスクの高い人には、原則的に抗ウイルス薬が処方されます。抗ウイルス薬は症状が出始めて48時間以内に投与することで最も有効に働きます。しかし、48時間を過ぎたら効かないわけではありません。

ただ、ぜんそくのある人では、リレンザの吸入によりぜんそく発作が誘発されることがあるため、吸入前に気管支拡張薬を使うよう指導されることがあります。リレンザが処方された時は、持病にぜんそくがあることを改めて医師に伝えて確認しましょう。

なお、タミフルを服用した子どもにも異常行動を示すケースが報告されましたが、タミフルと異常行動の因果関係ははっきりわかっていません。現時点では、必要があると判断されれば、1歳未満や、10歳以上の子どもにも十分な配慮の上で投与されています。

リレンザを処方されたら

リレンザの吸入によりぜんそく発作が誘発されることがあり、ぜんそくの人では吸入前に発作用の気管支拡張薬を使うよう指導されることがあります。また、添加物として乳糖が非常にわずかに含まれており、特に重症の乳アレルギーのある人では注意が必要です。なお、タミフルには乳糖、乳蛋白成分は含まれていません。

保育園・幼稚園・学校・職場でのインフルエンザ対策のために

日頃からぜんそく症状について学校や職場に伝えてある人も、「インフルエンザにかかったら、ぜんそくとインフルエンザの両方の症状が悪化しやすい」ことを周囲に理解してもらう必要があります。

特にぜんそくの症状は急速に悪化すると、呼吸困難や酸素不足で自分の状態をうまく訴えられなくなることもあります。

あらかじめ保護者は担任や養護の先生と「具合が悪そうだからと下校や帰宅を促すのではなく、様子を見て、

必要であればかかりつけ医に受診の相談をしてほしい」などと、緊急時の対策について話し合っておきましょう。

下記の書き込み式カードなどを使い、インフルエンザ感染による受診に備え、ぜんそく症状や治療の内容についてまとめておきましょう。自分で持っているほか、自宅や学校、職場では本人以外の方がわかる場所にも置いておくこと、担任や養護教諭、職場での管理責任者に預けておくことをおすすめします。

<ぜんそく患者(児)用インフルエンザ必携カード>

必要事項を記入して、周囲の人にも渡しておきましょう

ふりがな	診断名／治療の状態(既往症・合併症)
名前	
生年月日 明治・大正・昭和・平成 年 月 日 (歳)	
住所 TEL	処方されている薬／病院で発作時に使う薬
緊急連絡先(必ずつながる電話番号を)	医薬品に対するアレルギー／禁忌薬品
名前 (続柄)	
TEL	
携帯	
かかりつけ医 病院名	アナフィラキシーの既往歴(何歳の時、原因物質)
担当医 TEL	環境アレルギー
特記事項	食物アレルギー
	除去食(除去の程度)

ぜんそく患者と新型インフルエンザの自宅療養

ぜんそくなどで新型インフルエンザの症状が重くなりやすい人は、感染した家族の看護をしないことが基本です。しかし、それが避けられない場合は十分に注意しましょう。

ぜんそく患者(児)の家族(育児や介護をする人)が

インフルエンザに感染した場合も、発症から1週間程度はできるだけぜんそく患者(児)から離れるようにします。家庭内の感染で重症者を出さないよう、職場の理解を得ながら家庭内のサポート体制を作っておきましょう。

感染を防ぐポイント	<ul style="list-style-type: none"> ● 感染者は部屋を分け、睡眠だけでなく食事も別にする ● 部屋を分けられない時は、カーテンやついたてを利用して居場所を分ける ● 同じタオルを使わない。使い捨てのペーパータオルを利用する ● 部屋の湿度を50%程度に保ちつつ、十分換気をする ● 感染者の部屋の入り口にアルコール手指消毒剤をおいてこまめに使う
インフルエンザ感染者の行動	<ul style="list-style-type: none"> ● トイレや洗面所、他の家族がいるところでは感染者がマスクをする ● 風呂や洗面は、一番最後にする ● 解熱してから少なくとも2日間は外出を控える
家族の行動	<ul style="list-style-type: none"> ● 感染した子どもからは目を離さない(熱が一時的に下がった時が要注意) ● 看護中はマスクをして、手洗い、うがいをこまめにする ● 洗っていない手で顔や目、鼻、口を触らない

感染予防のために、自分でできること

せきエチケット ウイルスが含まれる唾液や鼻水などの飛沫は、2メートルくらい飛ぶことがあります。せきやくしゃみのある人にはマスクをつけてもらい、できるだけ近寄らないようにしましょう。マスクのない時には口と鼻をハンカチやティッシュ、衣類の袖で押さえ、顔を背けてせきやくしゃみをする習慣を、周囲にも広めていきましょう。

手洗い 手は知らないうちにウイルスを運んでいます。手洗いはこまめに、石けんと15秒以上の流水で指の間や爪の間もていねいに洗います。病院など公共施設のトイレを使った時は、アルコール手指消毒液も使しましょう。

うがい 水うがいをすることで風邪の発症率が40%下がるという調査があります。また、呼吸器の弱い人は、のどをしめらすことでせきが出にくくなるという効果もあります。ヨード液などのうがい薬を使う必要はありません。

掃除や洗濯 ドアノブ、イスの背もたれ、テーブル、階段の手すり、みんなが使うパソコンのキーボードや

テレビのリモコンなどもウイルスがついていると考えて、拭き掃除やアルコール消毒をこまめにします。

特に小さな子どもがいる時は、感染者が鼻や口を拭いたティッシュや使用したマスクはそのままゴミ箱に捨てず、ビニール袋などに入れて捨てるようにします。掃除や片づけの後はこまめに手を洗いましょう。

インフルエンザウイルスは洗剤や石けん、アルコール消毒液で感染力を失います。感染者の洗濯物を別に洗ったり、熱湯消毒などをする必要はありません。

正しいマスク着用

マスクの中の針金を鼻の形に折り曲げる
鼻の両脇にすぎまが空かないように

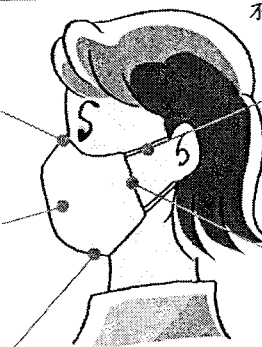
マスクはむやみに触らない、はずしたらすぐ捨てる

マスクを広げてあごまで包む

おすすめは不織布製マスク

ゴムが長過ぎる時は途中でしぼる

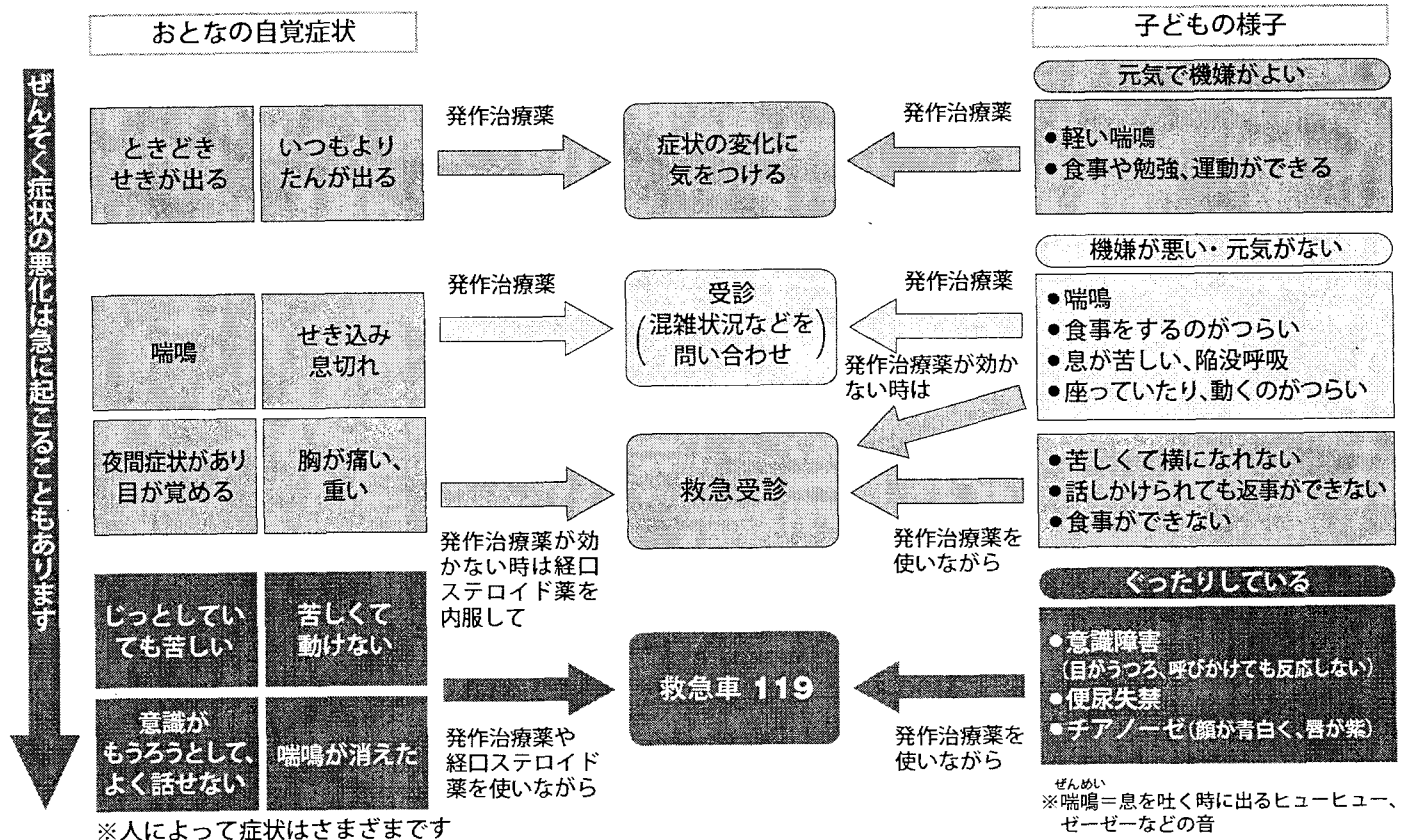
顔にぴったりフィットさせるのがポイント



ぜんそくの症状の変化に早めに対処しましょう

特に小さい子どもや高齢者の受診の遅れは、重症化やぜんそく死につながります。

参考文献：「喘息予防・管理ガイドライン2006」「アレルギー疾患 診断・治療ガイドライン2007」「家族と専門医が一緒に行った小児ぜんそくハンドブック2008」「HOW TO STUDY ぜんそく（2008年版）」など



Q&A～もっと知りたいこと～

Q ぜんそくをコントロールしていれば、インフルエンザにかかっても重症化する心配はないのですか？

A 日頃、ぜんそくがきちんとコントロールできていても、インフルエンザ感染によってぜんそくの症状が悪化し、インフルエンザそのものも重症化する場合があります。「しばらく発作が出ていない」という人も、手洗いやうがいのはこまめにし、感染が拡大している時期はあまり人混みに出ないなどの予防はきちんと行ないましょう。

Q ステロイド剤を使用していると免疫が抑制されて新型インフルエンザが重くなりやすいといわれました。現在使っているステロイド薬の吸入をやめたほうがいいのですか？

A 新型インフルエンザが重くなりやすいといわれているのは、ステロイドの飲み薬（内服薬）や点滴治療を続けていて、免疫が抑制されている場合です。ぜんそく治療で使う吸入ステロイド薬は、のどや気管支を中心に作用し、体内にはほとんど吸収されないため、全身の免疫を抑制する危険性はほとんどないと考えられています。ぜんそくをコントロールし発作を予防するためにも、吸入ステロイド薬の使用を自己判断で中止するのはやめましょう。

Q インフルエンザにかかった時、気管支拡張薬を使えばよくなりますか？

A 気管支拡張薬は気道や気管支を広げる薬であり、タミフル、リレンザなどの抗ウイルス薬ではありません。ぜんそくの発作は治まっても、新型インフルエンザの治療にはなりません。インフルエンザの症状を感じたら、かかりつけ医に受診の相談をしましょう。

Q インフルエンザにかかった時、その治療薬といつも使っているぜんそくの薬は、いっしょに使うことができますか？

Q インフルエンザで発熱してつらい時は、ひとまず市販の解熱剤を使っても大丈夫ですか？

Q 定期受診時に病院でのウイルス感染が心配です。感染が拡大している間はファクスなどで薬の処方を受けられますか？

Q 感染が拡大している間は、ぜんそくの薬は多めに処方してもらえるでしょうか？

A インフルエンザにかかった時、処方されるタミフルやリレンザなどの抗ウイルス薬は、ぜんそく治療薬といっしょに使うことができます。インフルエンザにかかった時もぜんそくの治療は継続しましょう。ただし、これまで薬を使って異常の起きたことがある人、アレルギーのある方はかかりつけ医とよく相談をしてください。

A インフルエンザでアセチルサリチル酸（商品名：アスピリン、アスピリン含有薬剤）やジクロフェナクナトリウム製剤（商品名：ボルタレンなど）、メフェナム酸（商品名：ポンタールなど）などの解熱鎮痛剤を使うと、子どもでは脳症などが起こる危険性があります。また、解熱鎮痛剤はぜんそく発作やむくみなどの強い症状を引き起こす場合もあります。

ぜんそくのある人は、薬の色素などの添加物に反応して症状が出ることもあります。市販薬や手持ちの薬などを使わず、かかりつけ医に相談をしましょう。

A 感染が拡大している地域では、かかりつけ医が了承した場合にかぎり、ぜんそく患者など定期受診する慢性疾患の患者に対し、電話での診療後、ファクスなどで処方することができます（2009年5月厚生労働省事務連絡）。詳しくはかかりつけ医とよくご相談ください。

A 新型インフルエンザの感染が拡大している時期には、不要な外出を避けるためにも、少し薬を多めにもらっておいてもよいでしょう。厚生労働省では、発売したばかりの新薬や特定の薬をのぞいて、90日以上長期処方を認めています。ただし、ぜんそくのコントロール状態などをみながら、かかりつけ医とよくご相談ください。

情報ネット

新型インフルエンザ情報、およびぜんそくに関する情報は下記のホームページでみるすることができます。ご利用ください。

新型インフルエンザ対策の基本方針、都道府県の新型インフルエンザ相談窓口など

- ◆厚生労働省 新型インフルエンザ対策関連情報 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/index.html>
- ◆新型インフルエンザ相談窓口 <http://www.mhlw.go.jp/kinkyu/kenkou/influenza/090430-02.html>

「一般の皆様へ」のページからアレルギー専門医を検索

- ◆社団法人日本アレルギー学会 <http://www.jsaweb.jp/general/list.html>

新型インフルエンザはじめ、感染症に関する総合的な情報サイト

- ◆国立感染症研究所 感染症情報センター <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

ぜんそく、COPD（慢性閉塞性肺疾患）についての詳しい情報、用語集など

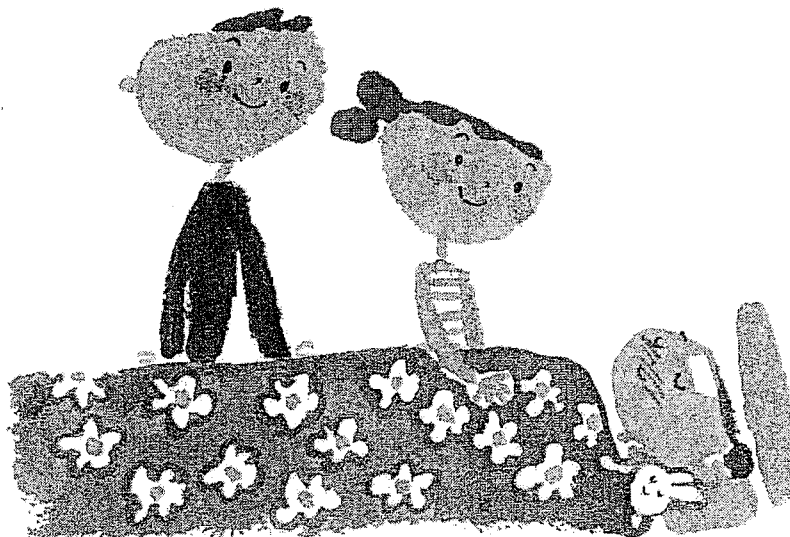
- ◆財団法人日本アレルギー協会 <http://www.jaanet.org/>
- ◆独立行政法人 環境再生保全機構 <http://www.erca.go.jp/>

平成21年度厚生労働科学研究費補助金（特別研究事業）「2009年度第一四半期の新型インフルエンザ対策実施を踏まえた情報提供のあり方に関する研究」研究班（主任研究者・安井良則／分担研究者・中山健夫／研究協力者・日本患者会情報センター）

- <患者委員> 赤城智美（NPO法人アトピッズ地球の子ネットワーク） 武石仁身（NPO法人アレルギー児を支える全国ネット「アラジーボット」）
武内澄子（食物アレルギーの子を持つ親の会） 武川篤之（NPO法人日本アレルギー友の会）
矢内純子（NPO法人環境汚染等から呼吸器病患者を守る会（エバレク）EPAREC）（五十音順）
- <医師委員> 秋山一男（日本アレルギー学会理事長・国立病院機構相模原病院長） 岡田賢司（国立病院機構福岡病院統括診療部長）
豊川貴生（国立感染症研究所感染症情報センター・FETP）（五十音順）

発熱したお子さんを見守るポイント

こんな症状を認めたら もう一度受診しましょう



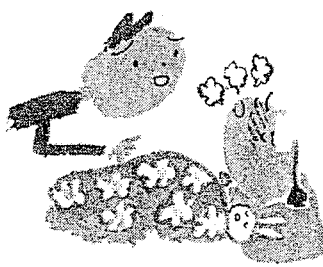
新型インフルエンザであっても、ほとんどのお子さんが季節性インフルエンザと同様に、3日から5日間発熱が続いた後に自然に治ります。しかし、まれに急性脳症、心筋炎、肺炎を合併したり、脱水などを起こすことがあります。そこで、自宅で療養するときには、お子さんをひとりにせず、次に示すような症状に気をつけて、定期的に状態を見守るようにしましょう。

意識障害



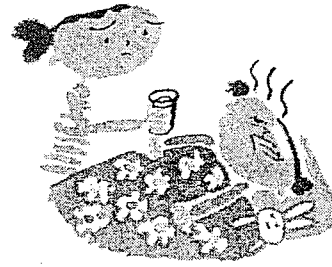
視線が合わない。呼びかけに答えない

呼吸困難



呼吸がはやくて、息苦しそう

脱水症



水分がとれず、おしっこが出ない

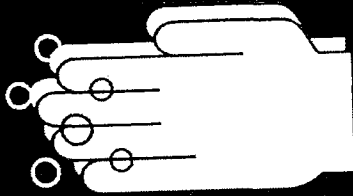
厚生労働省 日本小児科学会

●さらに詳しい情報については、ホームページをご参照ください。

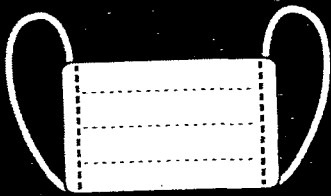
厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/index.html>

日本小児科学会 <http://www.jpeds.or.jp/influenza-j.html>

新型インフルエンザの 感染拡大は 一人ひとりが防ぐ！



感染を予防するために
こまめな手洗い・うがいを
徹底しましょう



感染をひろげないために
咳エチケットを守ってください

※咳エチケットとは：人に向かって咳やくしゃみをしないこと。とっさのくしゃみでは周囲の人から顔をそらし、用意があればティッシュなどで口・鼻をおおいます。咳などが出づけるときはマスクの着用を。



感染をひろげないために
かかったあとは外出自粛を
してください



重症化リスクの高い方は早期受診！

- ・持病のある方々のなかには、治療の経過や管理の状況により、インフルエンザに感染すると重症化するリスクが高いと判断される方がいます。（※下欄参照）
- ・予防（こまめな手洗いとうがい、人ごみを避けること）を心がけてください。
- ・また突然の高熱や咳、のどの痛みなどの症状が出たら、早期に受診してください。

※インフルエンザに感染すると重症化するリスクが高いと判断される方

- 慢性呼吸器疾患（ぜんそく・COPDなど）
- 慢性心疾患
- 糖尿病などの代謝性疾患
- 腎機能障害
- ステロイド内服などによる免疫機能不全
- 妊婦
- 乳幼児
- 高齢者

新型インフルエンザ ワクチンは

順次、生産されていくため

重症化リスク の 高い 人

から順に接種を行います。

優先接種の対象者

11月よりスタートし以下の順で接種を行います。

妊婦さん

幼児

(1歳～未就学)

保護者

(1歳未満児等の)

中学生
高校生

基礎疾患
を有する方々

小学生
(1～3年生)

小学生
(4～6年生)

高齢者

※日本赤十字社、日本赤十字社医療センター、日本赤十字社看護学校などの団体については、お住まいの市区町村にお問い合わせください。
インフルエンザワクチンには副作用が生じる場合があります。接種する前に必ず接種説明書をお読みください。接種後は、接種した部位を清潔に保ち、接種した部位を冷やさないでください。

ワクチンには効果とリスクがあります。

ワクチンには効果とリスクがあります。接種する前に必ず接種説明書をお読みください。接種後は、接種した部位を清潔に保ち、接種した部位を冷やさないでください。

当院にて新型インフルエンザ
ワクチン接種が受けられます

お問い合わせ先

●●病院 電話相談窓口(診療時間 ●●:●●~●●:●●)Tel. 00-0000-0000
●●病院 ホームページ <http://www.XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX>